

サツマイモ‘からゆたか’の早期出荷を目指した早掘栽培の検討

○平野優徳・伊東寛史・原田克哉・浦田貴子<sup>1)</sup>

(佐賀上場営セ・<sup>1)</sup>唐津農林事務所)

【目的】

佐賀県北西部の畑作地帯である上場地域は県内最大のサツマイモの産地である。

‘からゆたか’は2016年11月に農研機構作物研究所により登録された品種であり、上場地域の慣行品種である‘べにまさり’と比較して収量、品質および食味において高い評価を得ている。しかし、早期出荷や長期貯蔵といった周年出荷技術の確立には至っていない。

そこで、ここでは‘からゆたか’の早掘栽培における収量性について検討する。

【材料および方法】

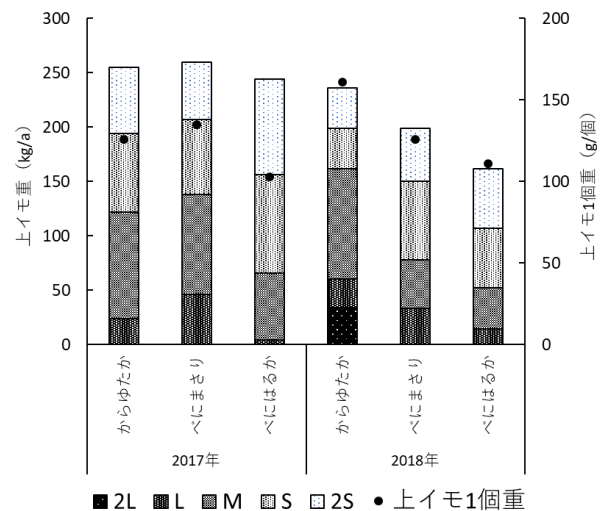
試験は2017年、2018年の2か年、佐賀県上場営農センター（唐津市鎮西町）の圃場で実施した。供試品種は‘からゆたか’を用い、対照品種に‘べにまさり’および‘べにはるか’を用いた。伏せ込みは2017年2月17日および2018年2月15日に行い、植付けは2017年4月25日および2018年4月25日に実施した。施肥はサツマイモ専用肥料（BB450）を元肥としてN:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=0.5:1.9:2.5 (kg/a) 施用し、黒色マルチで被覆後に挿苗した。試験規模は1区8.5m<sup>2</sup>（1.7m×5.0m）の3反復、栽植密度は470株/a（畦間85cm，株間25cm）とした。収穫は2017年8月2日および2018年8月3日に実施した。

【結果および考察】

‘からゆたか’の上イモ収量は、230kg/aで‘べにまさり’および‘べにはるか’と比較して同等以上であり、2か年とも安定した収量だった。‘からゆた

か’の上イモ数および上イモ1個重は、‘べにまさり’および‘べにはるか’と比較して同等以上であった。階級別重量は、LおよびM規格が平均48.5%で‘べにまさり’および‘べにはるか’より約10%以上高かった（第1図，第1表）。

以上のことから、8月上旬収穫の早掘栽培において、‘からゆたか’は対照品種である‘べにはるか’と比較して上イモ収量および上イモ1個重は多い傾向にあり、‘べにまさり’と比較しても同等以上であるため、‘からゆたか’は早期肥大性に優れ、上場地域における早掘栽培に適応性があると考えられる。



第1図 品種の違いによる階級別重量と上イモ1個重

第1表 品種の違いによる収量性

品種名	2017年				2018年			
	つる重 (kg/a)	上イモ重 (kg/a)	上イモ個数 (個/株)	上イモ1個重 (g/個)	つる重 (kg/a)	上イモ重 (kg/a)	上イモ個数 (個/株)	上イモ1個重 (g/個)
からゆたか	219 b	255	4.3	126 ab	187	237 a	3.2	161 a
べにまさり	264 ab	260	4.1	135 a	177	199 ab	3.4	126 ab
べにはるか	337 a	244	5.0	103 b	211	162 b	3.1	111 b
有意差	*	n.s.	n.s.	*	n.s.	*	n.s.	*

※異符号間にはTukey法により5%水準で有意差あり。